

VI. 『有松や . . . 』 (松本 淡々 絞里堂前)



有 松 や
家 の 中 な る
ぶ ぢ の は 那

淡 淡

①作者 松本 淡々 (まつもと たんたん、1674～1761)

大阪西横堀に生まれ、幼名熊之助、のち伝七。20歳のころ江戸に出て、芭蕉から呂国の号を受けた。芭蕉没後不角について因角と改め、のち渭北・半時庵・勃率翁など号し、また曲淵宗治・森三陽と称したこともある。

宝永の頃に江戸を去り、京都で門戸を張り、かなりの名声を博した。晩年、点印などを竿秋に譲って大阪に移住し、江戸堀に木槿庵を結び、百川朝水と号したが、ここも門人富天に譲って堺に移り、まもなくまた大阪に戻り、身終るまで島の内鰻谷に居住した。宝暦11年(1761年)11月2日『朝霜や 筈(つえ)で画きし富士の山』の一句を辞世として、88歳で没した。

② 設置について

平成16年12月 絞里堂前に近藤好彦氏によって設置されました。
